

教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	たびら たかゆき 田平 隆行	所属・職名	リハビリテーション学部・准教授
専門領域	作業療法学	学位称号	博士（保健医療学）.2005（平17）
最終学歴	2005(平17)国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科博士後期課程修了		
資格・免許等	作業療法士(第15913号), 認定作業療法士(第362号), 介護支援専門員(11-563)		
教育上の能力に関する事項			
担当科目	作業療法研究法, 身体障害作業療法学Ⅰ, 身体障害作業療法学Ⅱ, 高次脳機能障害作業療法学, 身体障害作業療法学演習, 身体障害作業療法学特論, 卒業研究, 精神機能支援学特論		
教育方法の 実践例 教材の 開発 教育改善 活動等	<p>1. 教育方法の実践例</p> <p>1) 臨床実践能力に配慮した講義 臨床現場での経験を生かし、事例を多く用い、ビデオ等で具体的にイメージしやすいよう心がけてきた。 また、障害像の理解を深めるため片麻痺のADL, IADL体験を実施した。</p> <p>2) 臨床研究能力に配慮した講義 卒業研究を担当する中で介護予防事業や脳外傷プラム, パーキンソン友の会等の実際の患者会や地域活動に同行させ、当事者の日常生活に触れる機会を多く設けた。その中で臨床体験, 臨床疑問, 仮説検証, 方法論等の一連の研究課題を疾患や事例を中心に考え方を指導した。</p> <p>2. 教材の開発</p> <p>1) 年4回, 作業療法士国家試験専門問題の模擬試験問題の身体障害部門（特に高次脳機能障害, パーキンソン病, ニューロパチー, 脊髄小脳変性症）において問題作成を行った。</p> <p>2) 国家試験対策参考書の頭部外傷の作業療法, 慢性関節リウマチとその他の骨関節疾患の作業療法, 老年期作業療法について執筆した。</p>		
職務上の実績に関する事項			
研究業績等に関する事項			
《 平成19年度～平成23年度 》			
著書・学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	発行又は 発表の年月
【著書】			
1. 標準作業療法学, 社会生活行為学, 遊び・趣味・余暇活動における作業療法実践への関わり	共著	医学書院	平成19年
2. 標準作業療法学, 社会生活行為学, 動物とロボットの活用	共著	医学書院	平成19年
3. 標準作業療法学, 社会生活行為学, 余暇活動における作業療法の補助手段	共著	医学書院	平成19年
4. 作業療法マニュアル39, 認知症高齢者の作業療法の実際, 介護予防・生活支援事業	共著	日本作業療法士協会	平成22年

【学術論文】			
1. Increased corticospinal excitability during direct observation of self-movement and indirect observation with a mirror box.	共著	Neuroscience Letters 419	平成 19 年
2. Effect of prolonged Stretch Exercise of upper extremity muscles on both Arm and Hand of cooperative motion.	共著	Niigata Journal of Health and Welfare 6(1)	平成 19 年
3. 軽度認知症における課題の認知的負荷量の相違が P300 に及ぼす影響	共著	日本作業療法研究学会雑誌 10(1)	平成 19 年
4. 上肢筋の持続性伸張時における前腕筋及び下肢筋の脊髄運動ニューロンの興奮性の変化	共著	日本作業療法研究学会雑誌 10(1)	平成 19 年
5. 視力低下が作業パフォーマンスに与える影響	共著	日本作業療法研究学会雑誌 10(1)	平成 19 年
6. Mirror Box 課題における運動野及び体性感覚野の興奮性の変化	共著	保健学研究 20(1)	平成 19 年
7. 音楽課題時における手指支配運動野の興奮性変化	共著	保健学研究 20(1)	平成 19 年
8. 背景音楽が認知的処理と課題遂行に及ぼす影響	共著	長崎作業療法研究 4(1)	平成 19 年
9. 転換性障害患者に対する作業療法の経験	共著	長崎作業療法研究 4(1)	平成 19 年
10. パーキンソン病患者における視覚情報処理過程の特徴—視覚探索課題を用いた検討—	共著	作業療法 27(1)	平成 20 年
11. 地域参加を促す介護老人保健施設における作業療法の役割	共著	作業療法 27(1)	平成 20 年
12. 認知症介護予防モデル事業の紹介と成果について	共著	保健学研究 20(2)	平成 20 年
13. Bilateral Facilitation of Hand-motor Cortices during a Reading Task.	共著	Advances in Exercise and Sports Physiology 14(3)	平成 20 年
14. 長崎大学医学部保健学科におけるチームアプローチ教育の効果 I	共著	リハビリテーション連携科学 10(1)	平成 21 年
15. 長崎大学医学部保健学科におけるチームアプローチ教育の効果 II	共著	リハビリテーション連携科学 10(1)	平成 21 年
16. 聴覚刺激による運動のペースコントロールが脳内運動準備活動に及ぼす影響	共著	日本作業療法研究学会雑誌 12(2)	平成 22 年
17. デイケア利用者における摂食機能障害徴候に関する実態調査	共著	日本作業療法研究学会雑誌 12(2)	平成 22 年
18. 高次脳機能障害者とその家族の障害認識の相違について	共著	長崎作業療法研究 5(1)	平成 22 年
19. 協会版認知症タイプ分類別に見た集団作業の影響—回復期リハビリテーション病棟において—	共著	長崎作業療法研究 5(1)	平成 22 年
20. 複雑動作や疑似動作の動作観察が皮質運動関連領域に及ぼす影響	共著	日本作業療法研究学会雑誌 13(1)	平成 22 年 8 月
21. 高齢者の認知機能面に対する運動及び作業療法介入の効果について	単著	理学療法探求 13	平成 22 年 12 月
23. 集団活動における作業工程の進め方の違いが認知症者の精神・心理機能へ及ぼす影響—回復期リハビリテーション病棟における介入研究—	共著	作業療法 30 (1)	平成 23 年 1 月
24. 認知症介護予防事業における事業形態の相違と認知機能との関係	共著	長崎作業療法研究 6(1)	平成 23 年 3 月
25. 介護保険職員の自己効力感の特徴—医療・保健施設職員との比較から—	共著	日本作業療法研究学会雑誌 14(1)	平成 23 年 10 月

26. 認知症の行動・心理症状 (BPSD) 対応の基礎知識に関する実態調査	共著	日本作業療法研究学会 雑誌 14(1)	平成 23 年 10 月
27. mirror box 課題における運動イメージ想起の関与が体性感覚野に及ぼす影響	共著	総合リハ 39 (11)	平成 23 年 11 月
28. 在宅虚弱高齢者に対するバランス強化運動とその効果尺度に関する検討ーパフォーマンステストと静止立位時重心動揺での効果検証ー	共著	保健学研究 23 (2)	平成 23 年 10 月
29. 回復期リハビリテーション病棟における認知症者に対する集団レクリエーションの実践	共著	日本作業療法研究学会 雑誌 14(2)	平成 24 年 3 月
【学会発表】			
1. 「うつ・閉じこもり・認知症予防事業」への作業療法士の参画	共同	第 41 回日本作業療法学会, 鹿児島	平成 19 年 6 月
2. うつ傾向を呈した長期入所者に対する作業活動	共同	第 41 回日本作業療法学会, 鹿児島	平成 19 年 6 月
3. 認知症介護予防モデル事業における作業療法の介入研究ー長崎市における通所型特定高齢者施策への作業療法士の参画に向けてー	共同	第 41 回日本作業療法学会, 鹿児島	平成 19 年 6 月
4. 社会参加を促す介護老人保健施設の作業療法の実際	共同	第 12 回地域作業療法研究会, 大分	平成 19 年 10 月
5. 高次脳機能障害者の年間発症数の推定と生活実態	共同	第 44 回日本リハビリテーション医学会	平成 19 年 5 月
6. 「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」への作業療法士の介入	共同	第 42 回日本作業療法学会, 長崎	平成 20 年 6 月
7. 脳梗塞片麻痺患者の上肢筋の持続伸張時における前腕筋および下腿筋の脊髄運動ニューロン興奮性の変化	共同	第 42 回日本作業療法学会, 長崎	平成 20 年 6 月
8. 通所型特定高齢者施策「うつ・閉じこもり・認知症介護予防事業」の成果と課題	共著	第 2 回日本作業療法研究学会, 神奈川	平成 20 年 10 月
9. 集団活動における作業形態の違いが認知症者の精神・心理機能に及ぼす影響	共同	第 30 回九州 PT・OT 合同学会	平成 20 年 11 月
10. 複雑動作や疑似動作の動作観察が皮質運動関連領域に及ぼす影響	共同	第 43 回日本作業療法学会, 福島	平成 21 年 6 月
11. リズムや客体の使用が運動関連脳電位に及ぼす影響	共同	第 43 回日本作業療法学会, 福島	平成 21 年 6 月
12. 認知症等介護予防事業における事業形態の相違と認知機能との関係	共同	第 43 回日本作業療法学会, 福島	平成 21 年 6 月
13. 集団活動における作業形態の相違が認知症者の精神・心理機能に及ぼす影響	共同	第 43 回日本作業療法学会, 福島	平成 21 年 6 月
14. 協会版認知症タイプ分類別にみた集団作業の影響ー回復期リハビリテーション病棟において	共同	第 43 回日本作業療法学会, 福島	平成 21 年 10 月
15. 認知症予防に対する拮抗体操の開発とその効果について	共同	リハビリテーション・ケア合同研究大会, 広島	平成 22 年 5 月
16. Rhythm controlled tasks and their influence on movement-related cortical potentials	共同	15th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Chile	平成 22 年 5 月
17. The effectiveness of a preventive program in a high risk group of elderly individual with dementia and/or depression	共同	15th International Congress of	平成 22 年 5 月

18. The effectiveness of group activities due to improvements in the mental and cognitive function in elderly people with dementia; Differences in the two groups according to the formation of group work.	共同	the World Federation of Occupational Therapists, Chile 15th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Chile	平成 22 年 5 月
19. Visuomotor Neuron Activity in Subjects when Observing Other Individuals performing Various Actions	共同	15th International Congress of the World Federation of Occupational Therapists, Chile	平成 22 年 5 月
20. 病院内での個展開催による自身の心的変化と周囲への影響～長期入院患者に対して余暇活動を用いたアプローチ～	共同	第 44 回日本作業療法学会, 仙台	平成 22 年 6 月
21. 認知症予防を目的とした拮抗体操の開発とその効果について	共同	第 44 回日本作業療法学会, 仙台	平成 22 年 6 月
22. Mirror Box 課題における運動イメージの関与が体性感覚野に及ぼす影響	共同	第 45 回日本理学療法学会学術大会, 岐阜.	平成 22 年 5 月
23. Mirror Box を用いた鏡像観察の有無が両側の皮質運動感覚関連領域の興奮性に及ぼす影響	共同	第 4 回日本作業療法研究学会, 札幌	平成 22 年 10 月
24. 複雑動作や疑似動作の鏡像観察が皮質運動感覚関連領域に及ぼす影響—Mirror box を用いた NIRS 研究—	共同	第 45 回日本作業療法学会, 大宮	平成 23 年 6 月
25. Mirror Box を用いた鏡像観察が両側の皮質運動感覚関連領域の興奮性に及ぼす影響	共同	第 45 回日本作業療法学会, 大宮	平成 23 年 6 月
26. 通所便り「カステラ」の発行がもたらす効果	共同	第 45 回日本作業療法学会, 大宮	平成 23 年 6 月
27. 地域活動支援における作業療法の役割と可能性—介護予防教室から見てきた習慣化と主体性—	共同	第 45 回日本作業療法学会, 大宮	平成 23 年 6 月
28. 同心円硬化症により空間的処理の障害を呈した一症例	共同	第 45 回日本作業療法学会, 大宮	平成 23 年 6 月
29. 慢性期脳卒中患者に自宅療法として Mental Practice を用いることの効果	共同	第 5 回日本作業療法研究学会, 岡山	平成 23 年 10 月
30. パーキンソン病患者の注意配分機能に関する研究—事象関連電位を用いた二重課題による検討—	共同	第 35 回日本神経心理学会総会学術集会, 栃木	平成 23 年 9 月
【その他】			
1. 認知症等予防事業の取り組み—予防事業の講師養成からの地域展開— (シンポジウム)	単著	全国地域リハビリテーション研究会研究大会, 佐世保	平成 21 年 8 月
2. 高齢者の認知機能面に対する運動効果について (シンポジウム)	単著	長崎大学理学療法同門会, 長崎	平成 22 年 3 月
3. 認知症介護予防を支援する活動に力をそそぐ	取材	日本作業療法士協会 広報誌 Opera14	平成 21 年 3 月
4. 認知症予防について知っておきたいこと	取材	長崎新聞	平成 22 年 4 月
5. 長崎県版介護予防事業マニュアル	共著	長崎県長寿社会課	平成 20 年 10 月

<p>「閉じこもり・認知症・うつ予防支援」</p> <p>6. 長崎県高次脳機能障害就労支援実態調査 報告書</p> <p>7. 居場所を探してー累犯障害者たち第5部 (9)</p>	<p>共著</p> <p>取材</p>	<p>長崎県障害福祉課, ナ ガサキリハビリテーシ ョンネットワーク</p> <p>長崎新聞</p>	<p>月</p> <p>平成 23 年 3 月</p> <p>平成 24 年 2 月</p>
<p>研究助成等</p>	<p>1. 文部科学省科学研究費補助金 若手研究 B (代表) 16700423 平成 16 年～平成 18 年</p> <p>2. 文部科学省科学研究費補助金 若手研究 B (代表) 18700462 平成 18 年～平成 20 年</p> <p>3. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 C (分担) 18500510 平成 18 年～平成 20 年</p> <p>4. 文部科学省科学研究費補助金 若手研究 B (代表) 21700537 平成 21 年～平成 23 年</p> <p>5. 日本損害保険協会 交通事故医療に関する一般研究助成 平成 23 年～平成 24 年</p> <p>6. 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 C (分担) 18500510 平成 23 年～平成 25 年</p>		
<p>学会及び社会における活動等</p>			
<p>【所属学会】 日本作業療法士協会, 日本臨床神経生理学会, 日本生理心理学会, 日本作業療法研究学会, 日本運動生理学会</p> <p>【社会活動】</p> <p>1. 日本作業療法士協会 機関誌「作業療法」編集協力委員 (平成 19 年～現在) 生涯教育推進委員 (平成 18 年～平成 21 年) 学会演題査読委員 (平成 19 年～現在) 事例報告登録制度委員 (平成 19 年～現在)</p> <p>2. 長崎県作業療法士会 教育局 理事 (平成 17 年～平成 21 年) 副会長 (平成 21 年～22 年)</p> <p>3. 日本作業療法研究学会 事務局長, 編集委員 (平成 19 年～現在)</p> <p>4. 長崎県長寿社会課 長崎県介護予防市町支援委員会 「閉じこもり・うつ・認知症予防」専門部会委員 (平成 18 年～21 年) 長崎県介護予防市町支援委員会 「認知症予防支援」委員会 委員長 (平成 22 年～現在) 長崎県リハビリテーション支援センター 委員 (平成 19 年～23 年 3 月)</p> <p>5. 長崎県障害福祉課 長崎県福祉のまちづくり委員会 委員 (平成 20 年～23 年 3 月) 高次脳機能障害就労支援実態調査 委員 (平成 22 年～23 年 3 月)</p> <p>6. 長崎圏域・長崎市 長崎市介護認定審査会 委員 (平成 16 年～23 年 3 月) 長崎市介護予防評価委員会 委員 (平成 18 年～現在) 長崎地域リハビリテーション連絡協議会 企画調整専門部会 委員 (平成 19 年～23 年 3 月) 長崎地域リハビリテーション広域支援センター 運営委員 (平成 20 年～23 年 3 月)</p> <p>7. 脳外傷友の会「ぷらむ」佐賀, 長崎への支援活動 (平成 19 年～現在)</p>			